

令和 4 年度 決 算 の 状 況

令和 4 年度は、新型コロナウイルス感染症が国内で感染者を確認してから 3 年目ではあったが、引き続き国によるコロナ対策・コロナ緊急経済対策等による予算措置がなされたほか、エネルギー・物価高騰対策などを盛り込んだ国の 2 度にわたる補正予算の影響を受けました。

我が国の経済は、ロシアによるウクライナ侵略後の不確実性の高まりの中ではあるが、民需を中心に緩やかに持ち直し、感染症の影響が大きかったサービス部門は先進各国に比べ遅れて回復傾向となり、全国旅行支援や水際対策緩和の効果に期待が高まっている状況である。消費者物価の上昇では、円安の影響もあり輸入物価上昇を背景とするコストプッシュ型で、経済全体では、国内需要のタイト化や賃金上昇による内生的な物価上昇とはなっていない状況が続いています。

このような状況の中、国の地方創生臨時交付金等を活用し、感染症対策はもとより事業継続への支援や消費喚起を促す経済対策、エネルギー・物価高騰対策などについて多岐にわたり実施したほか、8 月の大雨災害による災害復旧・救助対策など早期復旧と生活再建支援の取り組み、小松駅周辺や幸八幡線の整備、学校給食無償化の全中学生への拡大や学校施設の充実を図るなど、教育・子育て環境の整備を行いました。

また、2023 年春の北陸新幹線小松駅開業を見据え、駅周辺広場と合わせて、鉄道高架下の小松市観光交流センター「Komatsu 九）」を整備するとともに、小松市未来型図書館基本構想の策定にも着手し、新幹線開業がもたらす新しい交流時代に向けた公民連携の推進や各種プロモーションを実施しております。

歳入歳出性質別決算を前年度と比較すると、歳入では、市税において 11.6 億円の増加、大雨災害に伴う特別交付税が 7.9 億円の増加となったものの、新型コロナウイルス感染症対策関係交付金等の国庫支出金が 15.3 億円の減少となり、歳入全体としては 1.2 億円（▲0.2%）の減額となりました。

歳出においては、災害復旧費・災害救助費などの災害関連事業費が 8.6 億円の増加、小松駅周辺や幸八幡線の整備、学校改修などによる普通建設事業費が 5.7 億円の増加、プレミアム付商品券発行費、原油価格高騰対策事業者支援費などによる補助費等で 4.5 億円の増加となった一方で、子育て世帯臨時特別給付費などの扶助費が 16.2 億円の減少、貸付金が 4.8 億円の減少となり、歳出全体で 1.3 億円（▲0.2%）の減額となりました。

なお、各会計の決算状況は次のとおりです。

1. 一般会計

予算額 59,457,851 千円の内 3,361,653 千円を次年度に予算繰越しし、決算額は、歳入 55,336,355 千円、歳出 54,093,573 千円で、繰越財源 501,352 千円を除いた実質収支額は 741,430 千円の黒字決算となり、その内 380,000 千円を基金へ積み立て、実質繰越額は 361,430 千円となりました。

2. 特別会計

（1）国民健康保険事業

予算額 9,750,049 千円に対し、決算額は、歳入 9,647,969 千円、歳出 9,647,969 千円となりました。

（2）介護保険事業

予算額 10,338,531 千円に対し、決算額は、歳入 10,009,942 千円、歳出 9,699,215 千円で、実質収支額は 310,727 千円の黒字決算となり、その内 168,844 千円を基金へ積み立て、実質繰越額は 141,883 千円となりました。

（3）公債管理

予算額 11,143,700 千円に対し、決算額は、歳入歳出とも 10,911,223 千円となりました。

（4）産業団地事業

予算額 2,345,100 千円に対し、決算額は、歳入歳出とも 2,099,147 千円となり

ました。

(5) 後期高齢者医療

予算額 1,762,511 千円に対し、決算額は、歳入 1,738,496 千円、歳出 1,734,534 千円で、実質収支額は 3,962 千円の黒字決算となり、実質繰越額は 3,962 千円となりました。